

あさおサークル祭〈講演〉「論語」から学ぶ言葉の力 その三《恥》 報告・花岡風子
2019年7月7日(日) 川崎市・麻生市民センター 講師:植田渥雄先生

今年のあさおサークル祭では、『論語』から学ぶ言葉の力—その三《恥》をテーマに元桜美林大学教授・植田教授による論語のお話を聞きました。論語とは中国の春秋時代に活躍した儒家の祖である孔子とその弟子たちの言行を、さらにその弟子たちが書き残した書物です。成立年代、編集者は不詳ですが、孔子の時代は今から2500年前、日本では縄文時代に当たります。はるか大昔なのですが、論語は今なお読み継がれていますし、その内容に古さを感じるよりむしろ、新鮮さを感じる不思議な書物です。

今回取り上げられました「恥の文化」と言えば、何となく日本人独自のものではないかというイメージがありました。ところが論語の中で、孔子が理想として語ったことであり、江戸時代、朱子学を通して武士道と重なって深く日本人に浸透したようです。

論語の中で、植田先生が取り上げられた恥についての記述は、5か所もありました。原稿用紙にしてたった34枚という論語のなかでは、多いのかもしれませんが。そのうち特に印象深かった二つを以下にご紹介しますね。

子曰：「道之以政，齊之以刑、民免而無恥。道之以徳、齊之以礼、有恥且格。」

子曰いわく、これを導くにまつりごと政を以ってし、これをととの齊うるに刑を以ってすれば、民免れて恥なし。これを導くにとくの徳を以ってし、これをととの齊うるに礼を以ってすれば、恥有りて且格し。

「国民を導くために政策を用い、また治めるために刑罰をもってすれば、国民は法律の穴をみつけるでしょう。しかし。徳をもって国民を導き、礼をもって国を治めるならば、国民はその身を正す

ようになりましょう」ということですが、中国には「上に政策あれば、下に対策あり」という有名な言葉があるように、ルールと刑罰で縛ろうとしても難しいことは歴史が証明しています。

子曰：「古者、言之不出、恥躬之不逮也」

子曰く、古者、言の出でざるは、躬の逮およばざるを恥ずればなり。

「古人は軽々しく物をいわなかったが、それは実行のともなわないのを恥じたからだ」という意味ですが、植田先生の解説によると、「話を大げさに盛るのを一番恥ずかしいと思うのが本当の君子

(人の上にたつリーダー)

だ」ということです。春秋の時代は、思想家が自論を大きく盛って各国を遊説し自分を売り込んだ時代、今もまさに世の中には、サービスや効果を盛って売り込む手法が蔓延しています。現代はそういう意味で、春秋時代に通じる社会背景と言え

るかもしれません。また、今の時代は、ルールで縛れなきゃ、データで縛ろう、とばかりに、中国では、駐車違反をはじめとして個人の色んなデータを取られる時代になりました。しかし、やはり、犯罪はなくならないわけで、根底に「捕まらなきゃ良いんだ」という考えがまかり通ってしまえば、社会の秩序は守れないということの証明である気がします。個々人が、わが身の振る舞いを振り返り、「恥ずかしいことだ」と感じない限り、他者や法律・ルールによって人は縛れないものだと思います。

他にも、「本当はコノヤローと思っているのに、利益だけで友人として付き合うのは恥」「君子は行動より言葉が先行してはいけない」など、日本人の感覚にすんなりと合う内容でした。



植田先生は、日本人の恥の感覚は、江戸時代に論語好きの徳川家康が儒教を熱心に学び、臣下たちも伝えていったことが武士道精神の中に浸透していった、それほど論語は日本人に親しまれ、精神として溶け込んでいるとお話しされました。確かに、「恥」の文化は、少なくとも弱肉強食の中国よりは、和を尊しとする島国の日本人の方に親和性があると感じます。

さて、植田先生は時々、ご自分の頭の中で国際会議を開いていらっしゃるそうです。

そこには、あらゆる時代の中国人が参加していて、一つの問題を各時代の人物が意見を出し合って話し合うのだそうです。

「また、あらゆる年代の自分を参加させる会議なんかもありますね。若い時の考えを振り返ると、

りします。今年、私は 82 ですが、もしあと 10 年生きられたとして、92 になった私は、82 の時のオレは全然分かってなかったな、なんていうことになるかもしれませんね。」というお話は、とても新鮮でした。

言うまでもなく、歴史上の登場人物が空想会議でイキイキと発言するには、その下敷きとなる膨大な知識が必要なことは言うまでもなく、植田先生の凄さに改めて尊敬を感じました。

「歴史は現在と過去の対話である」E・H・カーという名言がありますが、植田先生にとっては、「論語は現在と過去の対話である」なのでしょう。

今年の論語講座も得るところの多い素晴らしい講義でした。

あの時は何にも分かっていなかったな、と思った